

令和4年度第2回青森市スポーツ推進審議会 会議概要

- 開催日時** 令和4年10月25日(火) 18:30~19:30
- 開催場所** 青森市福祉増進センター(しあわせプラザ) 3階 大会議室
- 出席委員** 増田 あけみ会長、柿崎 泰明委員、越田 強委員、須藤 浩延委員、
塚田 晴彦委員、馬渡 清隆委員、山崎 玲奈委員 <<計7名>>
- 欠席委員** 斎藤 広樹委員、高杉 勝彦委員、中田 吉光委員 <<計3名>>
- 事務局** 経済部地域スポーツ課
課長 小山 信哉、国民スポーツ大会準備室長 須藤 静路、
主幹 淋代 優樹、主幹 高坂 岳資、主幹 藤田 信弘、
主幹 成田 嘉廉、主査 今 福太郎、主事 奥谷 幸斗、
主事 武井 明生
浪岡振興部地域づくり振興課
主幹 木村 真吾、主事 中村 大志 <<計11名>>
- 会議次第**
- 1 開会
 - 2 審議
(案件) スポーツ団体に対する補助金について
・一般財団法人青森市スポーツ協会
・青森市スポーツ少年団
 - 3 報告
(案件) 令和4年度 主なスポーツ振興事業について
 - 4 その他
 - 5 閉会

■審議（案件）スポーツ団体に対する補助金について

事務局から、資料1のとおり、スポーツ団体に対する補助金について説明があった。

意見、質疑応答

なし

■報告（案件）令和4年度当 主なスポーツ振興事業について

事務局から、資料2のとおり、令和4年度 主なスポーツ振興事業について説明があった。

意見、質疑応答

○委員

様々なスポーツ振興事業を実施しているが、各事業の経済効果がどのくらいあったか計算しているか。

○事務局

各事業の経済効果を具体的に計算しているわけではないものの、例えば青森ユースサッカーフェスティバルでは、アンダー15・18の両大会で延べ2,471人が浅虫温泉や市内ホテルに宿泊しており、宿泊・飲食等による経済効果があったものとする。

また、2022 あおもり桜マラソンでは、参加者を県内在住者に限定したが、延べ1,148人に参加していただき、こちらについても宿泊・飲食等による経済効果があったものとする。

○委員

2023 あおもり桜マラソンの参加者数は何人を想定しているのか。

また、2022 あおもり桜マラソンは私自身もスタッフとして参加したが、フルマラソン・ハーフ・10kmのスタート・ゴール会場を統一していることがわかりやすく良かったと感じた。

○事務局

2022 あおもり桜マラソンは定員2,600人と設定して参加者を募集したが、来年度の大会については、定員数等をはじめ、大会の詳細を現在検討している。

また、2022 あおもり桜マラソンは委員の皆様にもスタッフとして協力していただき、大変感謝している。

○委員

ダンスを通じた交流促進について、ダンスはパリオリンピックでもブレイクダンスが採用されるなど、盛り上がってきている種目と感じている。

また、学校教員等を対象とした指導者講習については、プロの技術を直接学ぶことができる素晴らしい取組だと思う。

○事務局

ダンスを通じた交流促進に係る様々な取組については、学校からも好評をいただいております。来年度も継続して実施できるよう、予算の確保など、準備を進めているところである。

○委員

(仮称)青森市アリーナ整備について、世界経済が不安定であるなか、建築費用が高騰するなど、工事に影響は出ているのか。

○事務局

一般的に建築資材等の価格が上昇していることは承知しているが、(仮称)青森市アリーナ整備については、今のところ影響はないものと認識している。

■その他

委員・事務局から審議・報告案件以外について、発言があった。

意見、質疑応答

○事務局

委員の皆様においては、令和5年4月30日をもって任期満了となり、今回の審議会が任期中最後の審議会となる。事務局では、新たな委員の改選に向けて準備を進めているところであるが、委員を推薦していただいた各団体に対しては、引き続き、委員の推薦をお願いしたいと考えている。

○委員

教員の働き方改革の一環として、部活動の地域移行が話題となっている。中学校の部活動は令和5年度から3年間かけて地域移行を本格化することのだが、地域移行が円滑に進むよう関係者が協力していければと思っている。

○委員

スポーツ推進審議会委員を引き受けた頃は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言中であったが、現在も予断を許さない状況であり、スポーツは様々な制約を受けている。

子ども達の運動する機会が少なくなっていることを心配しているが、子ども達が運動する楽しさを少しでも多く感じてもらえるように努力していくことが、我々大人の責務と考える。

○委員

スポーツの魅力は実際に競技することだけではなく、競技者を応援することや、仲間と一緒に感動することも魅力の一つと考える。今後、中学校部活動の地域移行を進めていくことに当たっては、子ども達がスポーツの魅力を感じることができるようになっていかなければならないと感じている。

○委員

青函対抗総合体育大会や市町村対抗青森県民体育大会は以前から参加しているが、新型コロナウイルス感染症により中止になった大会があったことを残念に感じている。

令和8年の国民スポーツ大会に向けては、会場の整備だけではなく、競技力の向上も取り組んでいかなければならないと思われる。

○委員

スポーツ推進審議会委員となったことにより、自分が知らなかったスポーツに関することを学ぶことができ、できれば次期委員も引き受けたいと思っている。

新型コロナウイルス感染症のスポーツへの影響については、以前より大分制限が緩和されていると実感している。

また、学校の部活動については、少子化により昔のように人数を確保できないことを危惧している。

○委員

スポーツ推進審議会委員の任期中は新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ活動が思うように出来なかったことを残念に感じている。

次期委員として、協力できることがあるであれば、また協力していきたいと思っている。

○委員

部活動の地域移行について、家庭における経済的負担の増加が懸念され、各家庭の経済状況により、子どものスポーツをする機会が少なくなることが考えられる。

地域の施設や指導者を有効に活用しながら、部活動の地域移行が上手く軌道に乗っていくよう関係者が協力していかなければならない。

■閉会